

第5学年国語科学習指導案

単元名 メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう

教材名 「テレビとの付き合い方」 佐藤 二雄作（東京書籍 小学校5年下）

1 単元について

(1) 児童観

児童は、これまでに「読むこと」の説明的な文章の教材において、「動物の体と気候」（東京書籍5年上）の教材を用いて、段落ごとにどのようなことが書かれているのかを整理して要約したり、段落相互の関係や働きを押さえながら文章全体がどのように構成されているのかを考えたりする学習を行った。また、「新聞記事を読み比べよう」（東京書籍5年上）では、書き手が何を意図しているかによって、同じ題材でも記事の内容や掲載される写真などが違ってくことも学習してきた。さらに、「森林のおくりもの」（東京書籍5年下）では、自分の課題を解決するために、目次や索引、見出しなどを利用しながら、題名の工夫や述べ方に注意して読み、要旨を捉える学習も行った。

「書くこと」の学習としては、「立場を明確にして書こう」（東京書籍5年上）において、相手に自分の意見が伝わるように、効果的な構成を考えて意見文を書く経験をした。また、「資料を読んで考えたことを書こう」（東京書籍5年上）では、グラフや表などを読み取り、それを生かして文章を書く学習を行った。

これらの学習を通して、説明的な文章において文章構成を理解し要旨を捉えることや、資料を活用しながら伝えたいことを意見文に書くことはできるようになってきている。

しかし、筆者の意見の述べ方の工夫を読み取り、自分の意見をもつことができるようになるまでには至っていない。このことから、意見と具体例との関係に着目しながら、筆者の意見の述べ方の工夫を読み取る活動に取り組ませる必要があると考える。

(2) 教材観

今、子どもたちの身の回りにはテレビやゲーム、インターネットなど様々なメディアが溢れている。そこから発せられる情報を鵜呑みにしてしまっている現状も、日常の会話の中から見取れる。このような状況下にある子どもたちに、送り手の意図にまで想像を巡らせながらメディアと関わっていくことの必要性を考えさせることは、これからの情報化社会を生きていく上で重要であると考える。

本教材は、文章部分と資料部分の二つで構成されている。文章部分は序論、本論、結論から成り、本論は筆者の意見とそれを説明するための具体例から成っている。ここでは、テレビで放送される部分は一部であり、それがすべての情報だと誤解する例を「黒い部分」と「白い部分」の図を使って説明している。ここでは、長方形の図を用いて広い面積を占める「白い部分」の中に狭い面積の「黒い部分」を配置して、見える情報量と見えない情報量の対比を分かりやすく示している。そして、結論では今後のテレビとの上手な付き合い方を考えてほしいという筆者の主張が述べられている。また、補足の資料部分では、筆者の考えを補うために写真が二枚ずつ示されている。

このように、筆者の意見の述べ方の工夫を使って自分の考えを説明することができるようになっており、メディアについて考え、情報の受け止め方についての意見文をまとめる学習に適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること（「C読むこと」(2)イ）を言語活動として設定する。

第1次では、情報化社会における自己の意識向上を図っていこうという課題を提示し、学習の見通しをもたせる。まず、事前実施しておいたメディアについてのアンケート結果を見せながら、メディアそのものや自己の現状について意見交流をする。次に、意見文にまとめるために、筆者の意見の述べ方、図や具体例の提示の仕方に着目しながら教材文を読み進めるという学習の流れを把握させたりすることで、読みの必然性をもたせていきたい。

第2次では、筆者の意見と「黒い部分」と「白い部分」の図を使った具体例の挙げ方に着目しながら、教材文の文章構成や要旨を読み取らせる。「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を選び、抽象的な言葉と具体的な言葉に分類し整理していくことで、「筆者の意見と具体例との関係」や「筆者の主張」を読み取らせていきたい。筆者の意見の述べ方の工夫についても随時取り上げながら、構成の工夫やその効果を考えさせていきたい。また、補足の資料についても「黒い部分」と「白い部分」の図を使って考えることで、筆者の意見の述べ方の工夫を活用させたい。

第3次では、テレビ番組やコマーシャル、新聞、雑誌、広告、インターネット等を対象にして意見文にまとめさせる。教材文で読み取った筆者の意見の述べ方の工夫を生かすために、「黒い部分」と「白い部分」の図を使ったワークシートに構成メモを書かせてから意見文として表現させる。その後、交流会を開き、これからのメディアとの関わりについて考えを深めさせたい。

2 単元の目標

メディアと私たちの関わりについての意見文をまとめることを通して、意見と具体例との関係に注意して筆者の考えを読み取ることができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・身近なメディアに興味をもち、それらの特性や関わりを考えようとしている。	・意見と具体例との関係に着目し、その効果を考えながら筆者の考えを読み取っている。 【C読むこと(1)ウ】 ・自分の課題を解決するために、様々なメディアからの情報や、意見や解説の文章などを利用している。 【C読むこと(1)イ】	・説明的な文章における文章全体の構成を理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)】

4 指導と評価の計画(全9時間)

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準とその方法
事前	課外	○日頃のメディアとの関わりについて想起する。	・メディアについてのアンケートを実施し、児童とメディアとの関わりについて把握しておく。	

一	1	<p>○教材文を通読して初発の感想を書く。</p> <p>○単元のめあてや学習の流れを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実施しておいたメディアについてのアンケートの結果を基に話し合わせる。 ・初めて知ったことや疑問点、筆者の主張、自分の生活を振り返ってなどの視点を提示して感想を書かせ、交流させる。 	<p>【関】メディアと私たちの関わりについて関心をもち、積極的に話し合おうとしている。</p> <p>[ワークシートの記述と発言内容]</p>
二	2	<p>○文章構成を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・序論(①②)は話題の提示、本論(③④⑤⑥)が筆者の意見と具体例、結論(⑦)が筆者の主張であることを確認させる。 ・接続語や書かれている内容から、本論を筆者の意見と具体例の部分に分けさせる。 	<p>【言】文章全体の構成を理解している。</p> <p>[ワークシートの記述内容]</p>
	3	<p>○序論部分を読み取る。</p> <p>○筆者の主張を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張の前提条件を押さえるために、テレビが最も身近なメディアであることを確認させる。 ・自分の意見を読者に分かりやすく説明するために、グラフを用いていることに気付かせる。 ・文章構成表から筆者の主張が結論部分にあることを確認させ、読み取らせる。 	<p>【読む】筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)として、グラフを用いていることを捉え、その効果を読み取っている。</p> <p>[ワークシートの記述内容]</p> <p>【読む】筆者の主張を読み取っている。</p> <p>[ワークシートの記述内容]</p>
	4	<p>○「黒い部分」と「白い部分」の図の意味を考える。</p> <p>○本論部分の「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・⑤段落の説明を「黒い部分」と「白い部分」の図に当てはめさせていくことで、図の意味を理解させる。 ・図の「黒い部分」と「白い部分」に対応する言葉をマーキングしながら本文を読ませ、見つけた言葉を付箋に書き出させる。 ・書き出した付箋を「黒い部分」に当てはまる言葉と「白い部分」に当てはまる言葉に分けてワークシートに整理させる。 ・学級全体の交流により、確認させる。 	<p>【読む】図の意味を理解し、「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を読み取っている。</p> <p>[付箋の記述内容とワークシートの整理の仕方]</p>

<p>5 本 時</p>	<p>○本論部分の「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を整理し、筆者が図を使って伝えたかったことをまとめる。</p> <p>○筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が各自で整理しておいた「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を、対応関係や具体・抽象の別に注意しながら、話し合いを基に黒板で整理していく。 ・整理した言葉を基に、筆者が伝えたかったことをまとめさせる。 ・教材文にある表現を参考に、図や具体例の効果について考えさせる。 	<p>【読ウ】筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）として、図や具体例を用いていることを捉え、その効果を読み取っている。</p> <p>〔ワークシートの記述内容〕</p>
	<p>6</p> <p>○補足の写真資料を「黒い部分」と「白い部分」の図を使って説明する。</p> <p>○教材文と資料に共通することをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「このように」（p.107）という言葉から筆者の考えを読み取らせる。 ・「黒い部分」と「白い部分」の図と写真を対応させながら、写真の伝わり方について説明させる。 ・テレビや写真の伝わり方について共通することをつかませる。 	<p>【読ウ】筆者の考えを読み取り、図や写真を使って説明している。</p> <p>〔ワークシートの記述内容〕</p>
<p>三</p>	<p>7</p> <p>○自分が選んだメディアや身の回りの情報について、「黒い部分」と「白い部分」を明確にした構成メモを作る。</p> <p>8</p> <p>○構成メモを基に、メディアとの関わりについての意見文をまとめる。</p> <p>○簡単な発表練習をする。</p> <p>9</p> <p>○完成した意見文を紹介し合い、これからのメディアとの関わりについて考えを深</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ、自分が取り扱うテレビ番組やコマーシャルなどの内容を決めさせておき、ここでは、選んだ資料を「黒い部分」と「白い部分」の図を載せた構成メモに内容を整理させる。 ・第5時までに取り扱った筆者の意見の述べ方の工夫（説明の技）の他にも、筆者が用いている言葉の中で自分が使いたい言葉を探し出させる。（つまり、実際、錯覚、意図など） ・必要があれば、発表の際に使用する写真などを準備させる。 ・グループ内で紹介をさせた後、全体で数人紹介させる。その際、聞く側はコメントをするように促し、考えを深め 	<p>【読イ】自分が選んだメディアや身の回りの情報について、「黒い部分」と「白い部分」の図に当てはめながら内容を整理している。</p> <p>〔ワークシートの記述内容〕</p> <p>【読イ】意見と具体例との関係に注意して、意見文にまとめている。</p> <p>〔意見文の記述内容〕</p> <p>【言】文章全体の構成を理解している。</p> <p>〔意見文の記述内容〕</p> <p>【関】意見文を交流することで、これからのメディアとの関わりについて考えようとしている。</p>

	める。	させる。 ・これからのメディアとの関わりについても考えさせる。	[ワークシートの記述と発言内容]
--	-----	------------------------------------	------------------

5 本時の指導(5/9)

(1) 目標

筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)を捉え、その効果を読み取ることができる。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点 ■ICTの活用 ●形成的評価とそれに基づく支援
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 前時に書き出した「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を確認しながら本論部分を読ませる。</p> <p>○ 前時までに見付けた筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)を振り返り、本論にも筆者の説明の技があるかを考えていくことを伝える。</p>
<p>本論部分を読み取り、筆者の説明の技について考えよう。</p>	
<p>2 「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【「黒い部分」の具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、ドッジボール、おにごっこ、なわとび ・グループの一つ一つ ・ひとりひとりのすがた など <p>【「黒い部分」の筆者の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビの送り手が集め、選び、編集してとどける情報 ・ほんの一部 ・だれにでも受け入れてもらえそうな、そのごく一部 ・報道された事実 など </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「白い部分」の具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広いグラウンド ・いろいろなグループ ・グラウンドいっぱい広がっている全体 など <p>【「白い部分」の筆者の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界じゅうの出来事や動き ・実際の出来事にふくまれるぼうだいな量の情報 ・さまざまな出来事 ・もっと重要な情報 など </div>	<p>○ 児童が選んだ言葉は、どちらの部分に対応するかを考えさせるために、事前に短冊に書き出して用意しておく。</p> <p>○ 黒板に短冊を貼り、児童に実際に操作させ、話し合いながら整理していく。</p> <p>○ 分かりやすく整理するために、筆者の意見と具体例の別、対応関係については、途中においても随時支援していく。</p>
<p>3 筆者が「黒い部分」と「白い部分」の</p>	<p>● まとめられない児童には、筆者の考えが本文の</p>

図を使って伝えなかったことをまとめる。

(例) テレビを見るだけで分かったつもりになるが、テレビからとどけられる情報は一部であり、報道されなかった事実の中には重要な情報もたくさんある。

4 筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)について考える。

- ・「説明の技」…図や具体例を用いる。
- ・「効果」…筆者の考えをより伝わりやすくする。 など

5 筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)についてまとめる。

6 学習を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。

どの部分に書いてあるかを確認させ、その部分を参考にしてまとめさせる。

■ 電子黒板等に児童のワークシートを映し出し、まとめたことを発表させ、筆者が図を使って伝えなかったことを全体で確かめさせる。

○ p.104「このことを、分かりやすく」、p.105「もっと分かりやすく」などの表現を参考に、図や具体例の効果について考えさせる。

○ 図や具体例を用いて述べている部分を除いた文章を提示し、それらの効果について考えさせてもよい。

○ 自分の考えを納得させたり、より分かりやすく伝えたりするために、図や具体例を用いていることを押さえる。

○ ワークシートに記述させる。

評価【読む】

筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)として、図や具体例を用いていることを捉え、その効果を読み取っている。

[ワークシートの記述内容]

○ 次時は資料部分について読み取っていくことを伝える。